証券コード：4406

第143期 中間報告書

平成26年4月1日～平成26年9月30日

人と化学に向かい合う

私たち新日本理化グループは、
もの創りを通して広く社会の発展に貢献します。

新日本理化株式会社

New Japan Chemical Co., Ltd.

事業部制の利点を活かしながら、新技術・新製品開発の加速化、生産工程の効率化に注力し、業績向上に努めてまいります。

代表取締役社長　藤本万太郎

株主の皆様におかれましては、平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに当社第143期の第2四半期（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）における概要をご報告申し上げます。

事業の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費税率引き上げ前の駆け込み需要の反動から個人消費が落ち込んだほか、企業活動においても生産の減少がみられました。夏以降、政府の経済政策や雇用環境の改善により、反動減の影響が徐々に和らいではいるものの、依然として持ち直しの動きは鈍く、低迷が続きました。

化学業界におきましても、中東情勢の緊迫化を背景に、原料となるナフサの価格が高止まりを続ける一方、輸出の停滞が長期化し、厳しい状況で推移いたしました。

このような環境のなか、当社グループにおきましては、原材料価格の高騰に対応するため製品価格の是正に取り組んだほか、本年4月に導入した事業部制の下で、営業と研究の連携を強化し、新技術・新製品の早期開発に努めました。また、本年7月にはマレーシアに現地法人を設立し、成長を続ける東南アジアでの事業推進を図るなど、当社の重点課題である海外事業展開の加速に注力してまいりました。

しかしながら、駆け込み需要の反動による需要減の影響を大きく受けたほか、一部の製品では安価な海外品との競争にさらされるなど、当社を取り巻く状況は極めて厳しく、さらには円安による輸入原材料価格の高騰が継続したことも大きな負担となりました。

この結果、当社グループの売上高は151億5千9百万円（前年同四半期比2.0％増）となり、損益面では、営業損失1億3千8百万円（前年同四半期は9千万円の営業利益）、経常利益3百万円（前年同四半期比98.8％減）、四半期純損失7千7百万円（前年同四半期は1億7千9百万円の四半期純利益）となりました。

このような状況でございますので、中間配当につきましては見送りとさせていただきたく、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

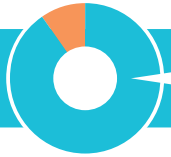
今後の見通し

今後のわが国経済につきましては、消費税率引き上げに伴う経済政策や良好な雇用環境が景気を下支えするとみられるものの、アジア新興国の景気低迷や円安による輸入原材料価格の高止まりが懸念されるなど、楽観を許さない状況が続くものと予測されます。

このような状況のなか、当社グループは、事業部制の利点を活かしながら、新技術・新製品開発の加速化および生産工程の効率化を図っていくほか、グループを挙げてのコスト削減に取り組んでまいります。さらに、海外事業展開を継続的に強化していくことで、一層の業績向上に努めてまいる所存です。

セグメント別事業の概況

●化学製品セグメント



90.5%

売上高 13,723百万円

アルコール製品では、繊維油剤・洗剤原料向けの高級アルコールおよびトイレタリー業界向け界面活性剤の販売が好調を維持したため、販売数量、売上高ともに前年より増加いたしました。しかしながら、油脂製品では、合成樹脂向け脂肪酸の需要が低迷したほか、グリセリンも海外品の攻勢を受けたことから、販売数量、売上高ともに前年を下回りました。

可塑剤は、住宅関連業界をはじめとする主要取引先における需要低迷の影響が大きく、また、海外品の流入量が過去最高水準に迫る勢いで推移するなど、大変厳しい販売環境を強いられました。

酸無水物は、アジアで需要の持ち直しがみられたことに加え、円安が売上に寄与したことから、輸出における販売数量、売上高はともに前年より増加いたしました。しかしながら、国内では、電機関連業界および住宅関連業界での需要が伸びず、販売数量、売上高ともに前年を下回りました。

ベンゼン誘導品は、海外品の攻勢が強く低調な販売が続きましたが、油剤関連では自動車関連業界向けの開発品が比較的順調に推移いたしました。また、新規開発品である医農薬中間体の用途開拓に積極的に取り組みました。

樹脂添加剤は、国内では顧客の大型定期修理の影響を受けたほか、海外市場では欧州での需要低迷により売上が伸び悩み、販売数量、売上高ともに前年に比べ微減となりました。

以上の結果、化学製品セグメントの当第2四半期連結累計期間の売上高は137億2千3百万円（前年同四半期比1.6%増）、セグメント損失は1億4千5百万円（前年同四半期は7千3百万円のセグメント利益）となりました。

●その他セグメント

9.5%

売上高 1,436百万円

その他セグメントにおきましては、防錆剤および水溶性切削油の自動車関連業界向け販売が好調を維持したものの、業務用洗剤および車両洗剤の販売が前年を下回りました。商社部門では、8月以降、住宅関連業界における需要の落ち込みによる影響を受けましたが、7月までの好調な販売が寄与し、売上高は前年同期より増加いたしました。

以上の結果、その他セグメントの当第2四半期連結累計期間の売上高は14億3千6百万円（前年同四半期比6.5%増）、セグメント利益は7百万円（前年同四半期比60.8%減）となりました。

※セグメント別事業の概況は、従来、「油脂製品」「石油化学製品」および「その他」に分けて記載しておりましたが、当第2四半期連結累計期間より、「化学製品」および「その他」の区分に変更しております。当第2四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

連結財務諸表／財務ハイライト（連結）

●四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

科　目	当第2四半期末 平成26年9月30日現在	前期末 平成26年3月31日現在
資産の部		
流動資産	17,951	18,196
固定資産	18,195	17,626
有形固定資産	9,354	9,368
無形固定資産	51	61
投資その他の資産	8,789	8,196
1 資産合計	**36,147**	**35,823**
負債の部		
流動負債	12,919	12,223
固定負債	9,693	10,365
2 負債合計	**22,613**	**22,588**
純資産の部		
株主資本	11,679	11,794
資本金	5,660	5,660
資本剰余金	4,246	4,246
利益剰余金	1,942	2,057
自己株式	△ 170	△ 170
その他の包括利益累計額	1,109	706
その他有価証券評価差額金	1,644	1,193
為替換算調整勘定	△ 334	△ 272
退職給付に係る調整累計額	△ 199	△ 214
少数株主持分	744	733
3 純資産合計	**13,534**	**13,234**
負債・純資産合計	**36,147**	**35,823**

●四半期連結損益計算書

（単位：百万円）

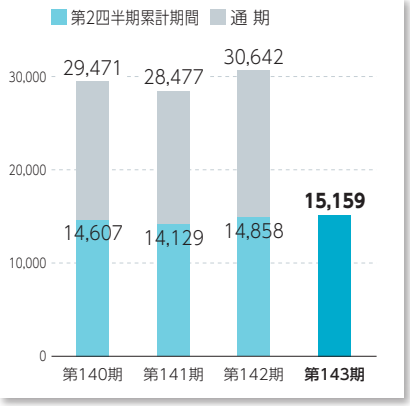
科　目	当第2四半期（累計） 自 平成26年4月 1日 至 平成26年9月30日	前第2四半期（累計） 自 平成25年4月 1日 至 平成25年9月30日
売上高	15,159	14,858
売上原価	13,168	12,650
売上総利益	1,990	2,208
販売費及び一般管理費	2,129	2,117
営業利益又は営業損失（△）	△ 138	90
営業外収益	212	243
営業外費用	70	82
経常利益	3	251
特別利益	—	2
特別損失	14	9
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	△ 11	245
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△ 53	199
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△ 77	179

●四半期連結キャッシュ・フロー計算書

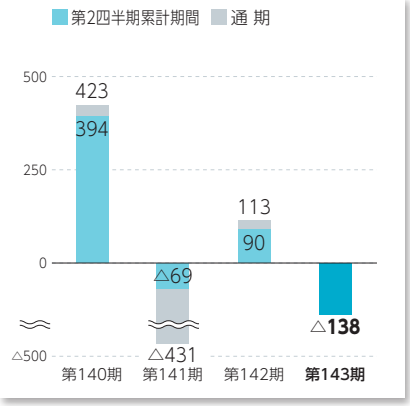
（単位：百万円）

科　目	当第2四半期（累計） 自 平成26年4月 1日 至 平成26年9月30日	前第2四半期（累計） 自 平成25年4月 1日 至 平成25年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 437	22
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 222	△ 1,114
財務活動によるキャッシュ・フロー	398	1,321
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	△ 5
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△ 259	223
現金及び現金同等物の期首残高	1,674	1,977
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,415	2,200

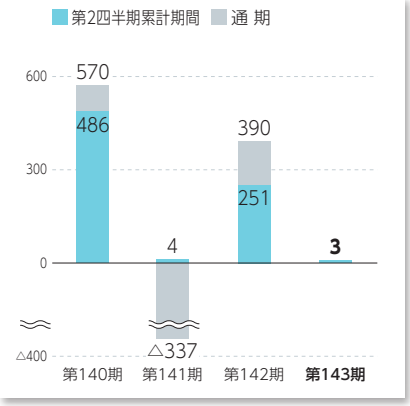
●売上高 （百万円）



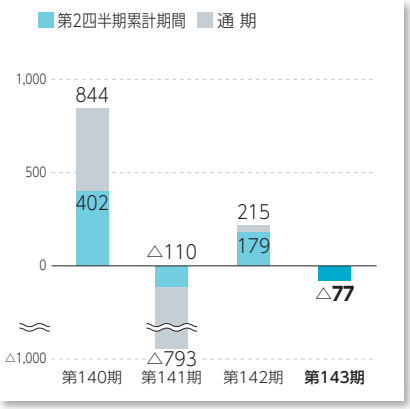
●営業利益 （百万円）



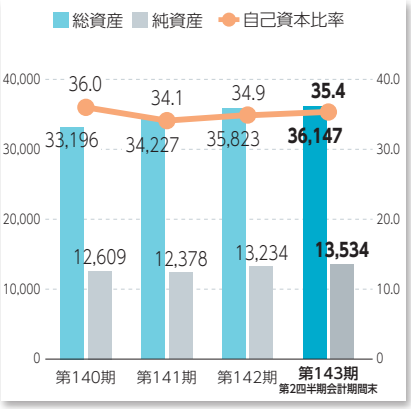
●経常利益 （百万円）



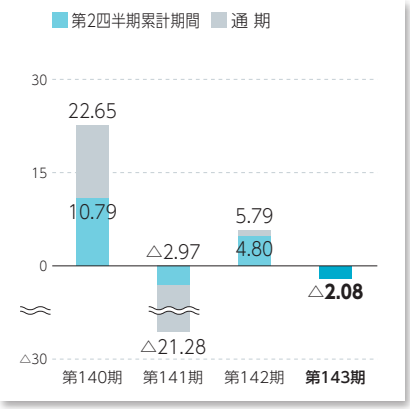
●四半期（当期）純利益 （百万円）



●総資産・純資産・自己資本比率 （百万円・%）



●1株当たり四半期（当期）純利益 （円）



ポイント 1 資産

総資産は、前期末比3億2千4百万円増加の361億4千7百万円となりました。流動資産は、棚卸資産が増加したものの、現金及び預金、受取手形及び売掛金が減少したことなどにより、前期末比2億4千4百万円の減少となりました。固定資産は、投資有価証券が増加したことなどにより、前期末比5億6千8百万円の増加となりました。

ポイント 2 負債

流動負債は、支払手形及び買掛金が減少したものの、短期借入金、1年内返済予定の長期借入金が増加したことなどにより、前期末比6億9千6百万円の増加となりました。固定負債は、長期借入金が減少したことなどにより、前期末比6億7千1百万円の減少となりました。この結果、負債は226億1千3百万円となりました。

ポイント 3 純資産

純資産は、四半期純損失を計上したものの、その他有価証券評価差額金が増加したことなどにより、前期末比2億9千9百万円増加の135億3千4百万円となりました。

会社概要

●会社概要 (平成26年9月30日現在)

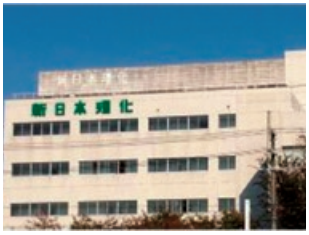
社　　名	新日本理化株式会社
設　　立	大正8年11月10日
資　本　金	5,660,863,449円
従 業 員 数	364名（単体）　467名（連結）
事　業　所	
大阪本社	大阪市中央区備後町二丁目1番8号 備後町野村ビル
東京支社	東京都中央区新川一丁目3番3号 グリーンオーク茅場町
研究所／京都工場	京都市伏見区葭島矢倉町13番地
徳島工場	徳島県徳島市川内町榎瀬1番地
川崎工場	川崎市川崎区浮島町7番2号
堺工場	堺市西区築港新町3丁5番地1

●重要な子会社および関連会社 (平成26年9月30日現在)

連結子会社	日新理化株式会社 アルベス株式会社 日東化成工業株式会社 NJC Korea Co.,Ltd.
持分法適用関連会社	Emery Oleochemicals Rika (M) Sdn.Bhd. 台湾新日化股份有限公司

●役員 (平成26年9月30日現在)

取締役会長	野村正朗
代表取締役社長	藤本万太郎
代表取締役 常務取締役	原健二
常務取締役	林豊
取締役	寺澤靜男
取締役	状家美香
取締役	加藤慎治
取締役	藤牧愼一
取締役	石野淳
取締役	芹田俊雄
常勤監査役	加藤純
監査役	織田貴昭
監査役	村永次郎



●研究所/京都工場

●徳島工場

●川崎工場

●堺工場

●株式の状況 (平成26年9月30日現在)

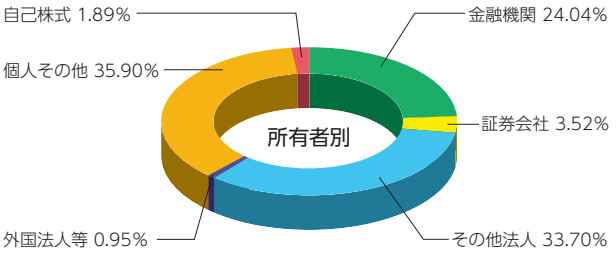
発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式の総数	38,008,906株 (うち自己株式720,049株)
株主数	7,865名

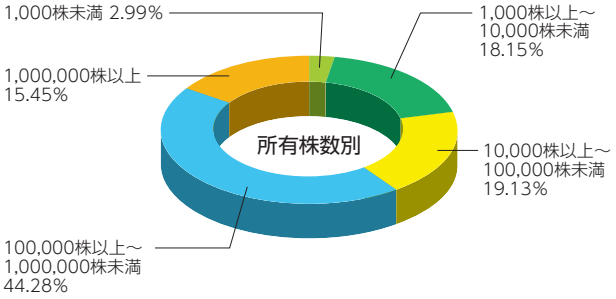
大株主（上位10名）

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社りそな銀行	1,861,533	4.99
株式会社西日本シティ銀行	1,633,300	4.38
フクダ電子株式会社	1,199,000	3.22
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	1,177,900	3.16
三井住友海上火災保険株式会社	941,600	2.53
日油株式会社	922,875	2.47
野村貿易株式会社	850,100	2.28
豊田通商株式会社	790,000	2.12
東洋テック株式会社	738,000	1.98
KHネオケム株式会社	609,000	1.63

(注) 1. 当社は、自己株式を720,049株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株式分布状況





ホームページのご案内

URL
http://www.nj-chem.co.jp/

当社ホームページにおきましても最新のトピックスをはじめ、様々な情報をご案内しております。

詳しくは ▶▶▶ 新日本理化 検索

IR情報メール配信サービス

Eメールアドレスをご登録いただいた皆様に、最新の当社IR情報をEメールでお知らせいたします。ご希望の方はトップページからご登録ください。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会の議決権　3月31日 期末配当　3月31日 中間配当　9月30日 臨時に必要がある場合は、その都度公告いたします。
公告方法	電子公告とし、当社ホームページ（http://www.nj-chem.co.jp/）に掲載いたします。 ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
単元株式数	100株
上場証券取引所	東京証券取引所　市場第1部
証券コード	4406
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
各種お問合わせ先 ［郵便物送付先］	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社　大阪証券代行部 電話　0120-094-777（通話料無料） ［受付時間　9:00～17:00（土、日、祝祭日、年末年始を除く）］ ホームページ　http://www.tr.mufg.jp/daikou/

●ご注意

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店にてもお取り次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

●特別口座に株式をお持ちの株主の皆様へ

特別口座は、平成20年末までに証券会社を通じて「ほふり」（証券保管振替機構）に預託されなかった株式について、株主様の権利を保全するために、当社の証券代行機関である三菱UFJ信託銀行に開設した株主ご本人様名義の口座のことです。特別口座は証券会社の口座と異なり、株式の売買ができませんので、証券会社の口座に移管されることをお勧めいたします。また、単元未満株式につきましても、証券会社の口座に振替えることができます。

なお、お手続き方法につきましては、上記の各種お問合わせ先にお申し出ください。

新日本理化株式会社

VEGETABLE OIL INK
環境に配慮した「植物油インキ」を使用しています。
UD FONT
見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。